

2024 年度温室効果ガス（GHG）排出量データについて

本会は、持続可能な社会の実現に向けた取組の一環として、2021 年度に初めて本部の温室効果ガス（GHG）排出量算定を開始し、2022 年 12 月に当該データを基にし、Carbon Footprint Report¹を公表しました。2022 年度以降は、本部に加え、地域会を含めた本会全体の GHG 排出量を算定しております。2024 年度分のデータの詳細は以下のとおりです。

本会は、引き続き環境負荷の低減に向けた取組を推進してまいります。

1. 2024 年度 GHG 排出量

本会における GHG 排出量の報告対象は、本部及び地域会です。

GHG 排出量の算定・報告の国際的な基準である GHG プロトコルの分類に則った本会の GHG 排出量をカテゴリ別に分類し、以下に示しています。

1.1. スコープ 1、2 排出量

スコープ 1²、2³の排出量は図表 1-1 に示すとおりです。2024 年度の本会全体でのスコープ 1、2 の合計排出量は 399.5（t-CO₂）⁴であり、うち約 76.5%を本部が占めています。2023 年度と比較してスコープ 2 が減少した要因は、電力供給事業者の電源構成改善が進展したため 1 単位（t-CO₂/kwh）当たりの排出係数が低下したことに伴う減少です。

図表 1-1 スコープ 1、2 排出量

(単位：t-CO₂)

スコープ	2023 年度 GHG 排出量 ①	2024 年度 GHG 排出量 ②	増減 ②-①
スコープ 1	0	0	0
スコープ 2*	409.5 (313.2)	399.5 (305.5)	-10.0 (-7.7)

※括弧内の数字は、本部の排出量を示す。

¹ <https://jicpa.or.jp/news/information/2022/20221213dbi.html>

² スコープ 1 とは、自社設備での燃料使用等で直接排出した温室効果ガスを指します。

³ スコープ 2 とは、外部から購入した電気などの使用に伴い間接的に排出された温室効果ガスを指します。

⁴ t-CO₂は二酸化炭素 1 トンを意味する単位です。

1.2. スコープ3 排出量

カテゴリ別のスコープ3⁵ 排出量は図表 1-2 に示すとおりです。算定対象は、本部及び地域会です。また、本会におけるサプライチェーン排出量の対象のカテゴリは 1、2、3、5、6、7 です。主に、カテゴリ 1（購入した製品・サービス）が公認会計会館のリニューアルに伴う資材等の購入により 40.3（t-CO₂）増加しました。カテゴリ 2（資本財）は固定資産の取得が減少したことにより 11.6（t-CO₂）減少しました。カテゴリ 6（出張）は出張が減少したことにより 98.8（t-CO₂）減少しました。

全体として、2024 年度の排出量は 2023 年度と比較して 63.1（t-CO₂）減少しました。

2024 年度の本会全体でのスコープ 3 の GHG 排出量は 1,335.2（t-CO₂）であり、うち約 93.4%を本部が占めています。

図表 1-2 スコープ 3 排出量

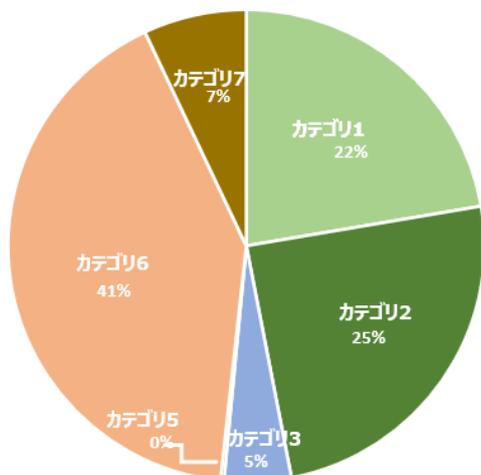
(単位：t-CO₂)

スコープ	カテゴリ	該当する活動	2023 年度 ①	2024 年度 ②	増減 ②－①
スコープ 3	カテゴリ 1：購入した製品・サービス	消耗品の調達等	312.0	352.3	40.3
	カテゴリ 2：資本財	固定資産の取得	344.6	333.0	-11.6
	カテゴリ 3：Scope1,2 に含まれない間接排出	電力調達	63.6	64.2	0.6
	カテゴリ 5：事業から出る廃棄物	廃棄物の廃棄	3.3	3.1	-0.2
	カテゴリ 6：出張	出張旅費	577.0	478.2	-98.8
	カテゴリ 7：雇用者の通勤	通勤	97.8	104.4	6.6
		合計		1,398.3	1,335.2

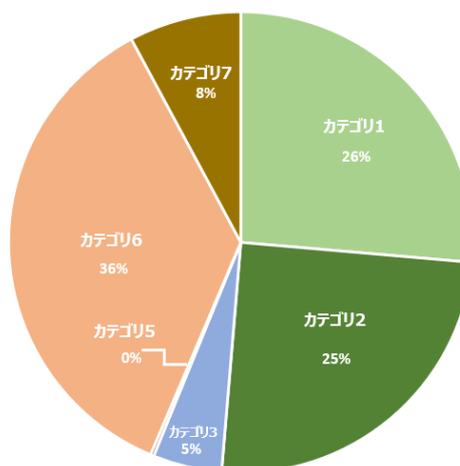
⁵ スコープ 3 とは、職員の通勤・出張に伴う排出や購入したサービスなど、スコープ 1、2 以外の間接的な排出として区分される温室効果ガスを指します。

図表 1-3 に示すとおり、2023 年度におけるスコープ 3 の GHG 排出量のうち、多くの割合を占めたのは「カテゴリ 1：購入した製品、サービス」、「カテゴリ 2：資本財」、「カテゴリ 6：出張」となっており、図表 1-4 に示すとおり、2024 年度も 2023 年度と同程度のカテゴリで多くの割合を占めております。

図表 1-3 2023 年度カテゴリ別の排出量割合



図表 1-4 2024 年度カテゴリ別の排出量割合



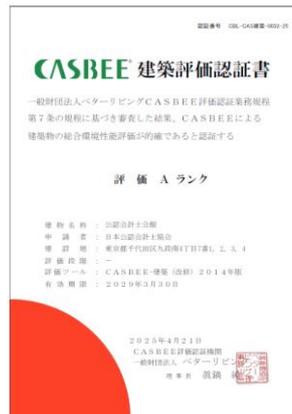
- カテゴリ1：購入した製品、サービス
- カテゴリ2：資本財
- カテゴリ3：スコープ1,2以外の間接排出
- カテゴリ5：廃棄物
- カテゴリ6：出張
- カテゴリ7：雇用者の通勤

2. CASBEE⁶ 認証の取得について

本会では、公認会計士会館の設備改修を進めており、CASBEE評価認証制度に基づき「CASBEE-建築（改修）」において評価Aランクを取得いたしました。

CASBEEには今回取得した建物の改修による環境負荷の低減を評価する「CASBEE-建築（改修）」と、健康や快適性を重視したオフィス環境を評価する「CASBEE-ウェルネスオフィス」の二つの認証があります。現在、「CASBEE-ウェルネスオフィス」の評価認証取得を目指しています。

これらの認証取得を通じて、本会は持続可能な社会の実現に貢献し、建物を利用する皆様にとって健康で快適な環境づくりを目指します。



- ・ 評価認証掲載サイト

一般財団法人ベターリビング CASBEE建築評価認証一覧

<https://www.cbl.or.jp/casbee/kenchiku.html>

IBECs CASBEE建築/評価認証物件一覧

https://www.ibecs.or.jp/CASBEE/certified_buld/CASBEE_certified_buld_list.htm

以 上

⁶ CASBEE®（キャスビー）は、国土交通省の主導のもと一般社団法人日本サステナブル建築協会によって開発された、建物などの環境性能を様々な視点から総合的に評価するためのツールです。これを第三者が評価に用いて交付された認証は、米国の LEED や英国の BREEAM と比類し日本を代表する建物認証として認識されています。